

令和8年度 研究全体計画

【学校教育目標】 「心豊かで、進んで学ぶ、丈夫な子」の育成

<児童の実態>

- ・明るく素直な児童が多い。
- ・学習に対して真面目に取り組む児童が多い
- ・学力は個人差が大きく、全体的に高いとは言えない
- ・自分の考えや理由を書いたり、表現したりすることが苦手
- ・文章を読んで解くような、思考を伴う問題に誤答が目立つ（学力テストより）

【研究主題】

思考を可視化する活動を通した
読み取り・表現力の育成

【研究仮説1】

思考を図や言葉、記号等で可視化する学習活動を継続的に位置付けることで、児童は情報や事象の関係性を整理しながら捉えることができるようになり、対象を多面的・構造的に読み取る力が育成されるであろう。

【研究仮説2】

思考過程の可視化を基盤とし、共有や対話を取り入れた学習環境を整えることで、児童は自らの考えを根拠や過程と関連付けて表現できるようになり、目的や相手を意識して説明・発信する力が高まるであろう。

<学力向上全体計画より>

本校の学力向上に係わる課題

- 国語や算数の基礎的・基本的な知識および技能の習得を図る。
- 自分で課題を見つけ主体的に学習に取り組む態度を養い、自分の考えを表現する力を高める。

各教科等の指導の重点

国語科

- 自分の思いや考えを意欲的に表現する。
- 身につけた知識や言語技能を活用する機会を意図的に設定する。
- 目的や条件に合わせて自分の考えを書く力や表現する力を高める。

算数科

- 数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身につける。
- 筋道を立てて考え、表現する力を育てる。

P D C Aによる授業改善

- ①課題解決への計画
- ②指導の実践
- ③実態の把握
- ④課題の絞り込み

仮説に対する手立て

【仮説に対する手立て】

- ①『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』の活用→「学びのステップ」
- ②発達段階や児童の実態に応じた働きかけの工夫
- ③既習事項や生活体験との差を感じさせたり、社会的見方をしたりできる素材提示の工夫
- ④情報や事象の関係性を整理するための工夫（言葉などを使った思考の可視化）【仮説1】
- ⑤共有や対話を取り入れた、目的や相手を意識した話し合い活動の工夫【仮説2】
- ⑥自分の考えを表すための工夫…ふきだし・学びカード・振り返りカード
- ⑦「分かる」場面や分かったことを活用する場面の確保

<共通実践>

「北っ子のびのびプラン」…基本的な知識・技能を身に付ける。

- ①『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』の活用→「学びのステップ」
- ②学習規律・学習過程の定着
- ③ノート指導（板書）…教材研究としてモデルノートの作成・お手本ノートの掲示
- ④スキルタイム…ドリル・マス計算・視写
- ⑤家庭学習…タブレット（学習アプリ）の活用

<研究の組織>

校長→教頭→研究推進委員会→研究全体会→研究部会